



京都信用金庫は  
全力で地域の皆様を  
応援します



みんな一緒に乗り越えよう!!

新型コロナウイルスの流行に伴い、当たり前だった日常が失われ、  
様々な場面に深刻な影響が及んでいます。  
コロナと闘いながら、一人ひとりが“今できること”を実践している取組を紹介します。

withコロナ

コロナと闘う私たちが、**今できること**

## 祇園祭の伝統文化を守るために

### • episode 01. クラウドファンディング

当金庫の紹介により、2017年から始まった祇園祭の継承を支援するクラウドファンディング。

残念ながら今年は、新型コロナウイルスの影響により第二次世界大戦の戦中・戦後の混乱時以来となる山鉾巡行、宵山の中止という事態になりました。しかし鉾の維持保全・修繕場所の確



保・粽の製造費用などは変わらず発生するため、各鉾町・山町の負担となっています。そこで、祇園祭の伝統文化を守るために、クラウドファンディングによるプロジェクトを立ち上げました。

コロナウイルスの感染が収束し、来年以降無事に開催されることを皆様と共に祈願いたします。

(この支援は寄付型となっており、寄付金控除対象です。)

#### クラウドファンディングページ



◀ 詳細は左記QRコード  
またはURLから  
ご確認ください

<https://www.makuake.com/project/gionmatsuri2020/>

※募集を終了している場合がございます。



## 安心して暮らせるように

### • episode 02. 造り酒屋が考案したアルコール消毒液

当金庫と長年にわたりお取引いただいている大石酒造様は、京都府亀岡市で創業300年を誇る造り酒屋です。杜氏の技を活かした手作りの地酒は、地元の方や観光客の方など、たくさんの人々に愛されてきました。また、1月から亀岡市を舞台にした大河ドラマが始まるなど町全体が活気で溢れていた中、コロ



ナの影響を受け、静まり返ってしまいました。以前は店頭販売だけでなく、酒蔵見学も毎日開催していましたが、団体予約等の利用がなくなり、社長の大石様は「これまでにない窮地に落胆した日もあったけど、プラス思考で乗り越えたい」と、今できることを模索する日々でした。

そんな時、昔もらったハワイ土産の小さなハンドジェルを見て、酒造の知識を活かしてアルコール消毒液を作れるのではないかと思います。エチルアルコールを使った「キンキラー」を考案しました。

商品ラベルを明るい色合いにすることで、少しでも明るい気持ちになってもらいたいという願いを込めています。純米酒を使用したスキンケア商品も販売しており、安心して使用していただきたいと思います。

大石酒造株式会社 代表取締役

大石 博司様



## 京都 × トーゴ共和国 「みんなが笑って過ごせる世界をつくる」

1990年、京都生まれ。滋賀大学経済学部在学中「誰も見たことがない世界を見たい」と思い立ち、アフリカ トーゴ共和国へ渡航。滞在中トーゴの人間関係の豊かさに触れ、自分は一人で生きているのではなく、仲間に生かされているのだと気付く。しかしそれと同時に、差別や貧困問題などの実態を目の当たりにし、衝撃を受ける。

そんな中「**みんなが笑って過ごせる世界をつくりたい。**」そう訴える現地の友人を見て、いつかアフリカに戻りその夢を共に叶える約束を交わす。

帰国後、アフリカで学んだ「**大切なのは言語スキルよりも、地域の人たちと確かな関係性を築くこと**」を軸に就職活動を再開。

そして地域とのコミュニティを大切にしている**京都信用金庫に入社**。嵐山地域で営業担当としての活動をスタートし、世界中で高い評価を受けている京都の染色技術に出会う。そのクオリティの高さに感動すると共に、高いスキルを持つ職人がたくさんいるのに、後継者が不足しているという課題を抱えていることを知り、京都で生まれ育った金融機関の担当者として、何もできないことに無力さを感じる日々が続いた。

しかしある日、職人の仕事ぶりを見ていると、その景色がかつて見たアフリカ民族の手仕事と重なって見えた。その時**トーゴの布職人と京都の染色技術を融合することで、アフリカの貧困問題と京都の職人が抱える課題を解決できる**のではないかと考えた。



そして入社5年目にして「**京信アントレ・サポートに背中を押され、トーゴで起業することを決意**」。退社後、株式会社AFURIKA DOGSを設立。アフリカの伝統布パーニュと京都の染色技術を重ね、その背景にあるたくさんの価値を繋ぎながら新たな服作りに挑戦している。

### 「京信アントレ・サポート」とは？

起業を目指すお客様を支援する中で、職員自らも刺激を受け「起業したい」という想いを抱くことは自然であると考えます。そんな想いを応援するべく、当金庫には起業を目的に退職する職員は、5年以内であれば復帰することができる「京信アントレ・サポート」という制度があります。



▲京信最終日



▲展示会DIALOGUEに出展。  
(中須さんと職員)



▲京信時代の同僚達が  
オフィスを訪問

京信へ  
ひと言



“**起業家に寄り添う  
その温かさ”を  
持ち続けてほしい。**”

会社設立当初はたくさんの企業が声をかけてくださいましたが、事業をスタートした半年間は売上がゼロでした。そして、当初周りにいた企業は離れていってしまったのです。やはり目に見える成果を出すことだけが信用や評価に繋がるのだろうか、と思いました。

でも、京信はその成果が出せなかった時、信用が崩れてしまった時でも、**僕自身がぶれなければ、ずっと傍にいてくれました**。そもそも、アフリカを舞台に起業する20代に融資できるかを審

査する地域金融機関は世界的にも稀かもしれない。京信には、**夢を持つ人の話にまず耳を傾けてくれる、そして可能性を広げてくれる、その温かさをこれからも持ち続けて欲しいです**。

中須さん 奮闘記!

著書『**Go to Togo**』

中須さんのこれまでの道のりが著されており、その行動力に背中を押される一冊です!



お客様のしあわせづくりをサポートするために取り組んでいること

## 1. 認知症サポーター

認知症の方も安心して暮らせる  
まちづくりを目指します！



2025年には認知症高齢者は700万人、65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されています。当金庫では職員の9割以上が認知症サポーター養成講座を受講し、サポーターとして正確な理解と対応方法を身に付けています。また、この講座はキャラバン・メイト\*登録を受けた当金庫の職員自らが講師を務めています。認知症サポーター養成講座を受講すると付与されるオレンジリングは、認知症サポーターの目印です。必要に応じて地域包括支援センターへ紹介させていただくなど、認知症の方やそのご家族を支援いたします。

認知症サポーターキャラバンのマスコットであるロバ3頭が刻印されています。

“認知症になっても安心して暮らせるまちづくり”への道のりの先頭をロバのように、急がず一步一步着実に歩いていくといった意味が込められています。



※自治体事務局等と協働して地域や職域・学校などで認知症サポーターを育成する役割を担っている地域のリーダー。

## 2. ロールプレイング発表会

お客様のしあわせづくりサポート力の向上を目指し、定期的にロールプレイング発表会を開催しています。お客様自身もまだお気づきでない潜在的ニーズや想いを実現可能にするために、高い提案力や対話スキル、金融知識の向上を目指して日々鍛錬しています。



参加した職員の声

この発表会に向けた練習では、商品説明のわかりやすさに重点を置き、何度も試行錯誤を繰り返しました。その結果、実際の現場でもお客様から「とてもよく理解できた！」と嬉しいお声をいただくようになりました。

参加した職員の声

お客様とお話する際、どのようなライフプランを描いておられるのかお聞きし、それに対する情報提供や、気づきのきっかけとなるようなお話ができるようになりました。この経験を活かし、今後もお客様の選択の幅を広げられるよう努めます。



Cスクエアバックナンバーはこちらからお読みいただけます！  
[Click!](#)